

2 進学先の種類と特徴

(1) 4年制大学（6年制大学）

学部・学科は多様化しており、今後ますます細分化する可能性があります。

なお、同じ名称の学部・学科でもその教育内容は大学によってそれぞれ特色があり、志望大学の決定にあたっては、よく調べておく必要があります。

(2) 短期大学

短期大学も学科の種類は多く、同じ名称でも内容が異なったり、内容が同じでも学科名が異なったりする場合があります。取得できる資格も異なってくるので、よく調べることが大切です。また、四年制大学への編入枠を持っている短期大学も多く見られます。

(3) 専修学校

技術の習得や資格の取得を主たる目的とします。よく聞く「～専門学校」というのは、この専修学校という大きなくりの中の1つです。近年では「～大学校」と称する学校もあります。

看護、医療、保育系を除いては、学科試験はあまり実施されず、面接試験と書類だけで入学を許可される場合が多くあります。学習内容が資格と技術の習得そのものをめざしているため、確固たる職業意識をもっていなければ、授業で扱われる実務内容の厳しさのため途中で挫折する場合があります。安易に学校を選ぶことなく、自分の将来設計を十分考えてから選ぶ必要があります。

また、専修学校は認可基準に幅があるため、施設、設備や授業内容の面で問題点のある学校も無いわけではありません。出願に際しては、案内書や広告をうのみにするのではなく、必ず実際に学校を訪ね、授業内容などを確かめて慎重に選ぶ必要があります。

(4) 大学校

文部科学省以外の関係省庁が直轄、または地方公共団体が所管する専門教育機関です。各分野での資格がとれ、その多くが卒業後の進路もはっきりしています。行政改革により独立行政法人化した大学校もありますが、そうでない大学校、例えば「気象大学校」の学生なら、国家公務員（気象庁職員）の身分となり給与および諸手当も支給され、卒業後は主に気象庁などで働くこととなります。